

1 - 1 北海道とその周辺の最近の地震活動 (1981年11月 - 1982年6月)

Recent Seismic Activity in and around Hokkaido (November, 1981 - June, 1982)

北海道大学理学部
Faculty of Science, Hokkaido University

1982年3月21日に浦河沖でM7.1の地震が発生し引続き多数の余震が発生している(第1図の浦河付近の著しい集中域)が、この地震活動については別に報告する。¹⁾

北海道東方沖では前回報告した81年9月3日の地震²⁾につづいて11月23日にM6.0の地震が発生しこれにも余震活動がみられた(第1図A付近の集中域)。2回の地震活動を比較すると、9月の地震では本震直後の余震の減り方が大変早く、最大余震に2次的余震活動がみられたのに対して、11月の地震では余震の減少の様子は順調であった(第1表、第2図)。震源域は明らかに別の場所にあり、11月の地震の方が根室半島に近かった(第3図)。どちらも前震活動は認められていない。

内陸の地震活動は82年2月末までは低調であった。日高山脈西側に集中している地震活動(第1図B)のうち3個はダム建設工事に伴う発破である(今期の発破は11月末をもって終了した)。12月28日から1月3日にかけて函館付近で地震が多発したが有感地震は含まれていない。3月以降内陸の地震活動は少々活発となり、3月4日に北海道北部羽幌付近で有感地震(震度I)を含む群発地震(第1図C)、5月2日北海道東部屈斜路湖付近で震度Ⅲの地震2回、5月5日函館付近で震度Ⅲの地震に続く微小余震活動、などがあつた。

今回の期間中に日本海沿岸で8個の浅発地震が発生しており、前の期間(81年5月 - 10月)の2個³⁾にくらべると多くなっている。(本谷義信)

参 考 文 献

- 1) 北大理学部：1982年3月21日浦河沖地震，連絡会報，**28**(1982)，8 - 13.
- 2) 北大理学部：1981年9月3日色丹島沖地震(M6.5)，連絡会報，**27**(1982)，9 - 11.
- 3) 北大理学部：北海道とその周辺の最近の地震活動(1981年5月～11月)，連絡会報，**27**(1982)，1 - 4.

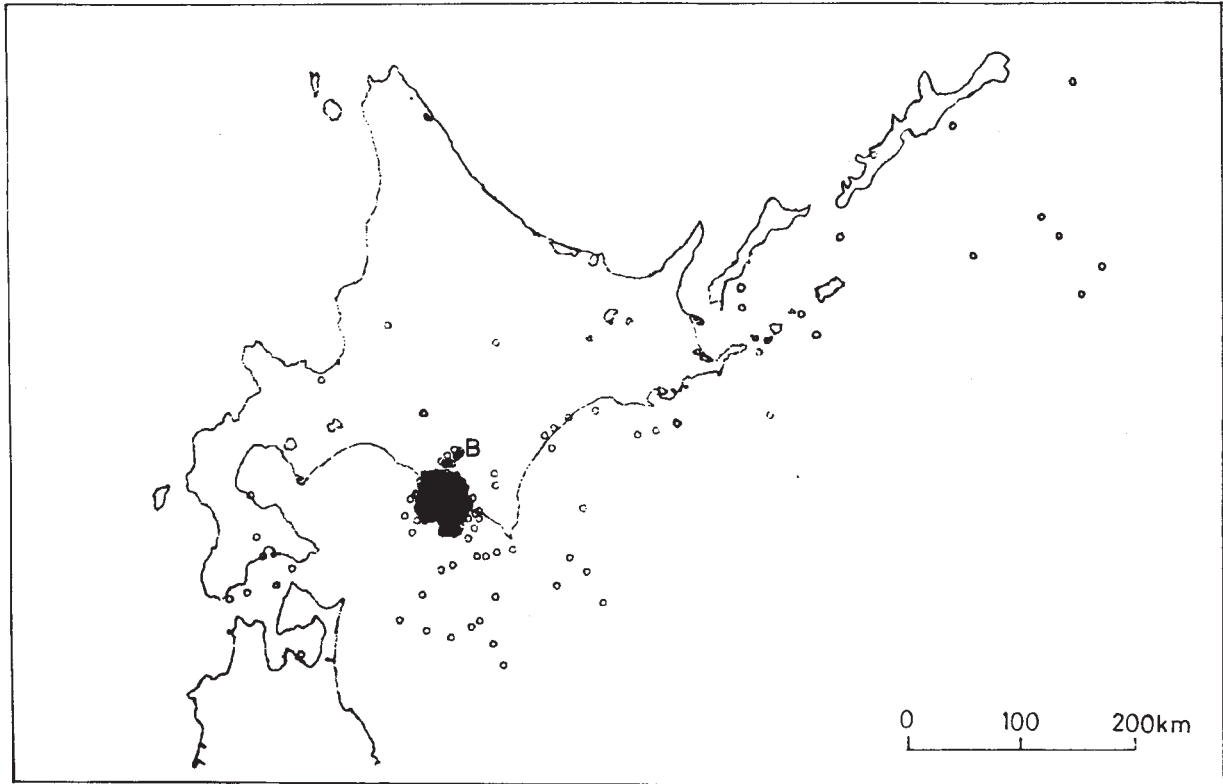
第1表 北海道東方沖の2回の余震活動

Table 1 Two aftershock sequences in 1981, E off Hokkaido

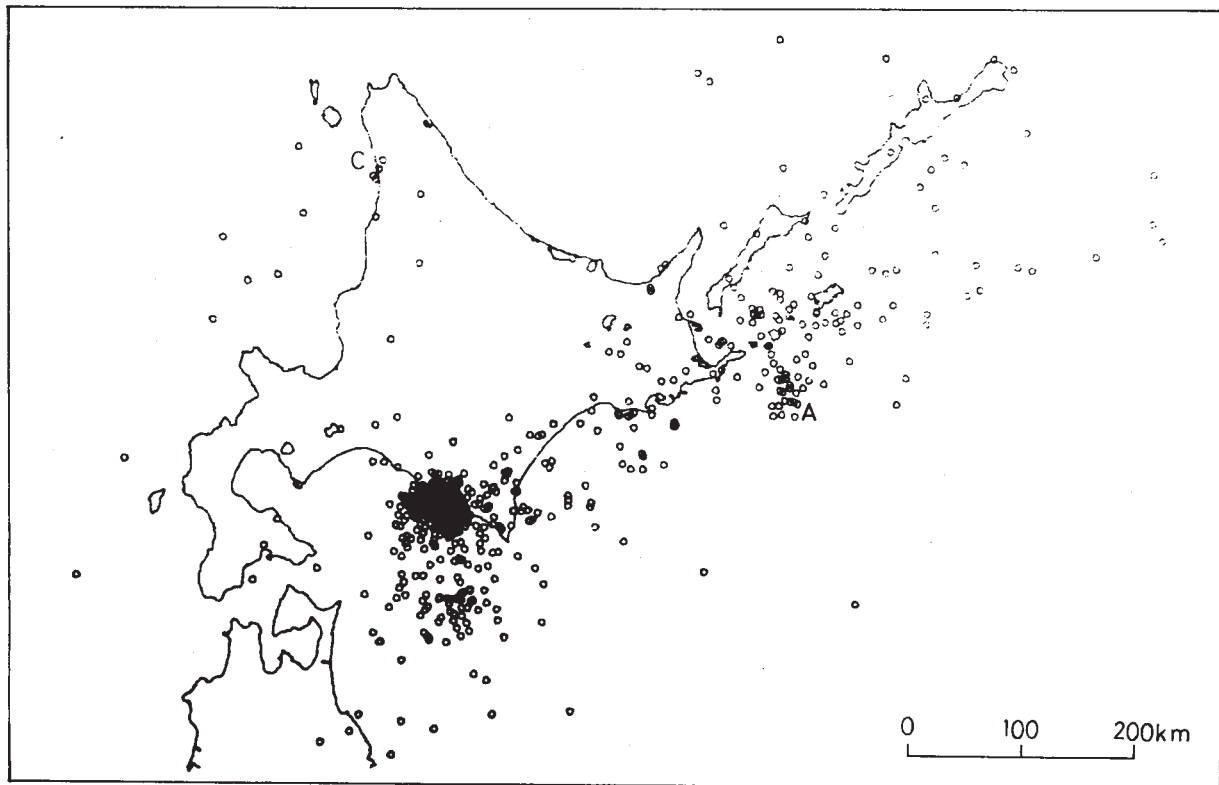
Sequence	Main shock		M_0	Largest aftershock		
	Date	Time		Date	Time	M_1
A	Sep. 03	14h35m	6.5	Sep. 09	04h26m	5.7
B	Nov. 23	19 17	6.0	Nov. 25	23 43	4.8

Each aftershock region is shown in Fig. 3.

811121-820611, 00-30KM, M ALL, N=3218

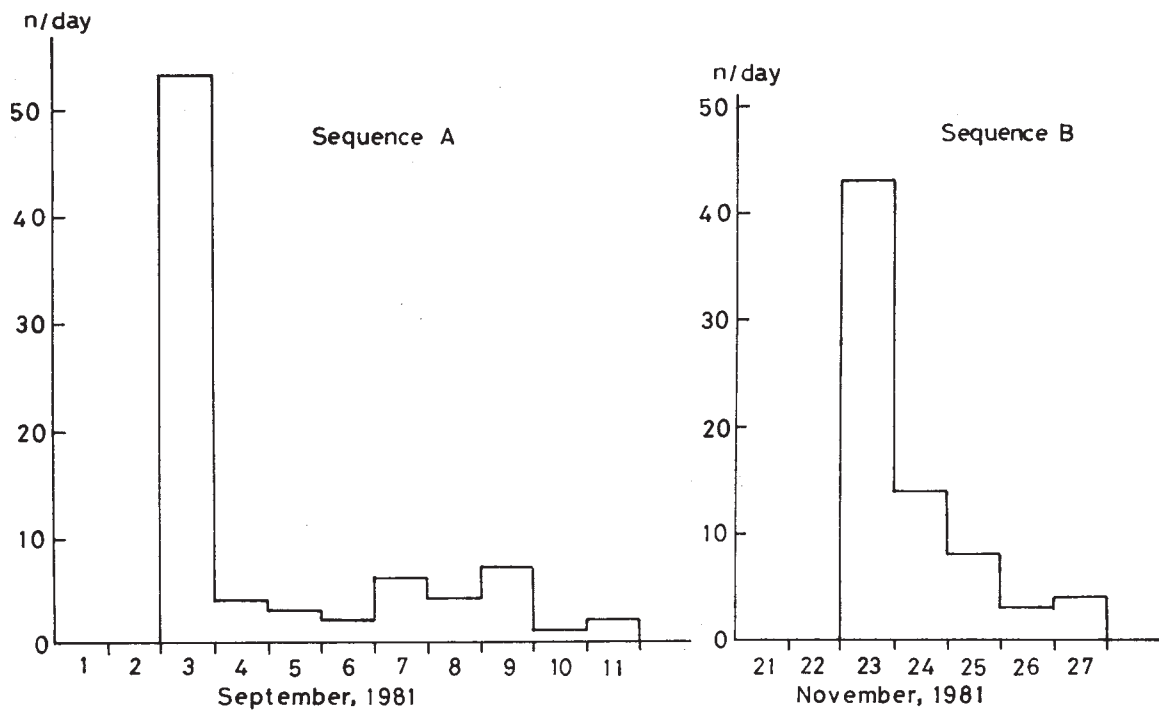


811121-820611, 30-60KM, M ALL, N=1717

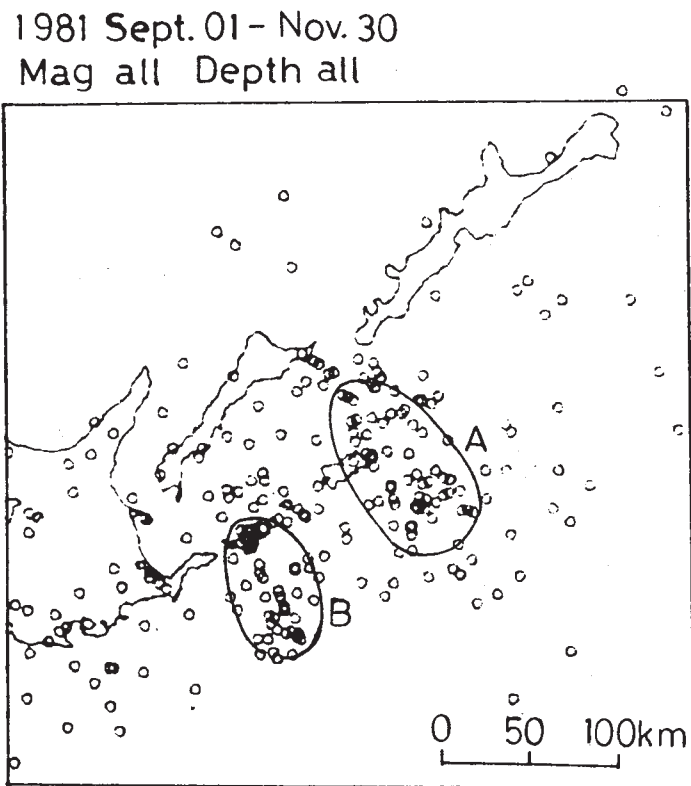


第1図 北海道とその周辺の浅発地震の震央分布。A～Cは本文参照

Fig. 1 Epicenter distributions of shallow earthquakes in and around Hokkaido.



第2図 北海道東方沖に発生した2回の地震(第1表)の余震の日別回数
 Fig. 2 Daily number of aftershocks of the two main shocks listed in Table 1.



第3図 北海道東方沖に発生した2回の地震(第1表)の余震域
 Fig. 3 Epicenter distribution E off Hokkaido. Ellipses A and B show aftershock regions of the two main shocks listed in Table 1.